

平成 23 年度第 3 回診断評価等基準委員会議事録

開催日時：平成 24 年 1 月 19 日（木）20:00—21:00

開催場所：ホテル日航東京 3 階「サンセットテラス」

議題

1. JOABPEQ、JOACMEQ マニュアル本作成について

【報告事項】

笠井委員より、マニュアル本は本年 4 月の本学会学術集会までに完成させるべく最終編集過程にあることが報告された。マニュアル本制作費用について南江堂より説明があった（資料 1）。

【審議事項】

- ①マニュアル本の題名は「JOABPEQ、JOACMEQ マニュアル」とすることが全員一致で承認された。
- ②編者に（本委員会に加えて）「日本整形外科学会」を入れること、推薦の序については（菊地臣一本学会理事長に加えて）岩本幸英日本整形外科学会理事長にも執筆を依頼する方針が確認された。
- ③本学会会員への配布に加えて一般販売（南江堂から 1500 円で販売希望あり）を行う方針が承認された。
- ④現在 JOABPEQ、JOACMEQ は日本整形外科学会/日本脊椎脊髄病学会ホームページの会員専用ページからしかダウンロード出来ない状態のため、マニュアル本にその旨を付記することが決定された。

2. 学会主導研究に対する協力者へのインセンティブについて

【報告事項】

本委員会から提出された「(脊椎脊髄外科) 指導医資格申請（更新含む）の際、研究 1 例につき症例数 10 例に換算する」という案に対し、「指導医の手術症例で優遇することは事務的に困難」という理事会判断があった。

前回の案

- ①（脊椎脊髄外科）指導医資格申請（更新含む）の際、研究 1 例につき提出症例 10 例に換算
- ②評議員応募の際、学会主導研究への参加状況も評価対象とする

【審議事項】

①について「事務的に困難である」ことへの対策として、研究参加の証明書を発行したらどうかとの意見があり、再度理事会に提案することが決定された。

②については取り下げることが決定した。

3. 経費請求について

【審議事項】

委員会活動において、日整会に予算請求している項目については3月に送金してもらえるように、2月中に帳票を整えて申請する必要があるため、紺野委員長より予算案が提示された（資料2）。JOABPEQ 健常者基準値については、当初DISTOプロジェクトのデータを使用できると考え当委員会としては行わない予定であったが、DISTOプロジェクトの収集データが腰部脊柱管狭窄で下肢症状を伴う患者に偏っていることが明らかとなった。そこで改めて当委員会がJOABPEQ 健常者基準値作成のための調査を行うべく、予算申請に計上した経緯が説明された。JOABPEQ 健常者調査については全員一致で了承され、橋爪委員が担当となることが決定された。予算案として計上されている「腰椎変性側弯症が健康関連 QOL に及ぼす影響の横断的研究」について、種市委員より X線フィルムの読影を（測定バイアスをなくすため）業者に依頼できないか現在調査中であり、実現可能であればその費用についても予算請求したい旨の報告があった。

4. 2013年日本整形外科学会総会（広島）におけるシンポジウム案について

【報告事項】

宮本アドバイザーから既に案を提出した旨が報告された（資料3）。

5. プロジェクト研究進行状況について

①細野委員より「（異なる施設の）術者によって頰椎症の手術成績(JOACMEQ)に差があるか」について、参加5施設が決定し研究計画を倫理委員会に提出する段階であることが報告された。

②種市委員より「腰椎変性側弯症が健康関連 QOL に及ぼす影響の横断的研究」について報告があった。

③加藤委員より「腰椎変性すべり症に対する手術的治療法の有用性に対するJOABPEQを用いた多施設前向き研究」について、プロトコールがほぼ完成したこと、症例は1椎間病変（L4/5）に限定すること、治療中の変形性関節症（股関節、膝関節、足関節）は除外する方針であることが報告された。参加施設は本委員会メンバー（アドバイザーも含めて）の施設を中心におこなうことが確認された。

④田中委員より「JOACMEQ 健常者調査」について、データ収集がほぼ終了しており、最終的に約1600例達成できる見込みであることが報告された。

6. その他

①川上担当理事より、「本委員会のメンバーは原則2年交代であるが、研究計画が始動したところなので、現在のメンバーであと2年継続し、2年後に総入れ替えする」旨の提案があり、全員に了承された。

②次回委員会は脊椎脊髄病学会の期間中に行うことが決定された。